

第三者評価結果報告書



①第三者評価機関名			
株式会社 ケアシステムズ			
②施設・事業者情報			
名 称	エクセレント武蔵小杉保育園	種 別	認可保育所
代 表 者 氏 名	大川 一則	定員 (利用人数)	120
所 在 地	〒211-0063 川崎市中原区小杉町2-313		
電 話	044-733-5106	ホ ー ム ペ ー ジ	https://www.heartfukushi.or.jp
【施設・事業所の概要】			
開 設 年 月 日	2020年4月1日		
経営法人・設置主体 (法人名等)	社会福祉法人 ハート福祉会		
職 員 数	常勤職員： 29 名	非常勤職員：	1 名
専 門 職 員	専門職名称	人数	名
	保育士	28	名
	栄養士	1	名
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)	
	保育室6室、ホール1室、調理室1室、事務室	冷暖房設備、2階保育室床暖房設備、空気清浄機	
	医療室1室、倉庫2室、休憩室1室、相談室1室、トイレ5室、沐浴室1室、ロッカー室1室	設備 給食用エレベーター、	
③理念・基本方針			
<p>〈基本方針〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当園は、開園して5年目を迎えた。法人の教育・保育基本理念である「Jの育み」である「自由に」（自発的に）「自分らしく」（自分の思いを表現する）「自適に」（安心感と信頼感を持って楽しく過ごす）「自立する」（生きる力を育む）を基本に保育を展開し豊かな保育の実現に努める。 ・研修計画を作成し、法人研修やキャリアアップ研修及び系列園の3園合同研修や園内研修を通して専門性や人材育成に注力し、法人の保育理念の共有と保育士の資質と保育実践の向上を図っている。 ・保護者と日々の保育の様子や子どもの育ちを共有し、信頼関係の基、保護者と保育園が一体となり、子どもの育ちを共有し、保護者支援をしていくことに努めている。 ・5類になった新型コロナウイルス感染症を含め、各感染症の拡大発症とならないように引き続き衛生管理に努める。 <p>〈保育理念〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権尊重及び子どもの権利保障 ・子どもの健全な発達保障 			

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・1階はエントランス、0歳児クラス、1歳児クラスは2階、2歳児クラスと幼児クラスが3階にあり落ち着いた保育環境になっている。園庭が屋上にあり伸び伸びと身体を動かしたり、夏にはプールを設置して水あそび等を楽しみ、保育士や友達と様々な遊び方を考え工夫しながら遊びを展開し楽しんでいる。
- ・子ども達の日々の生活体験からの発想を大切に、なりきり遊びやごっこ遊びを通して友達とイメージを共有しながら遊びを広げられるように、マルチパーツや遊びに必要なものを製作できる素材を設置して主体性を育めるようにしている。またクラスだけではなく異年齢で楽しめる機会を多くもち、年下の子への優しい気持ち、年上の子へのあこがれの気持ちをもつ等、社会性や協調性の育ちを大切にしている。
- ・3階にホールがあり、全クラスが年齢の発達に合わせ、マルチパーツや巧技台を設置したり、ピアノのリズムに合わせて全身を使いながら身体機能を高められるように雨の日でも遊べる運動あそびを行っている。
- ・種から発芽、苗からの成長を楽しみに野菜を育て、実った野菜は収穫して給食室で調理してもらい、自分たちで味わい、水やり等の世話をすることの大変さを感じたり、食べ物に感謝する気持ちをもてるようにしている。
- ・専門職を活かし、栄養士が食育のお話や、給食の食材に触れたり見せたりするためにクラスを回ったり、野菜の皮むきや種取りを経験できるようにしたり、食に関心を持ち楽しい気持ちで食事ができるように取り組んでいる。また、看護師は日々の健康観察に加え、手洗い指導や生活リズム等生活習慣に関する題材で集会等を行い、健康で元気であることができるよう保健指導計画をたて、専門職種を活かし、健全な保育園生活が送れるように取り組んでいる。
- ・年長児は系列園3園で交流会を開催しゲームやサッカー等の交流を図っている。
- ・幼児クラスは、ECC、ダンス、フットサルを通して外部講師から遊びの分野を広げ保育士は専門職から遊びの手段を学んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年5月29日（契約日）～2024年11月14日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（令和年度）

⑥総評

◇特長

利用者満足の向上を目的とする仕組みを構築し、取り組みを行っている

保育士は子どもに対して、日常の保育の中で子どもの表情、態度、言葉の発信内容、しぐさなどから日々子どもへの支援に対する満足度を把握している。子どもに変化があった場合や子どもの思いに寄り添っていない場合には話し合い職員間で保育の見直し、改善を行って次の保育に活かせるように取り組んでいる。保護者に対しては定期的にまたは行事実施後にアンケートを行い100%回収に努め、年2回クラス別懇談会や個人面談、保育参観を実施して保護者からの意見や思いを受け止め利用者満足度を把握している。どんな些細な意見や感想も漏れなく把握し、各種の会議を設置して職員間で話し合い、把握した結果を分析・検討してサービス提供の改善に取り組んでいる。

養護と教育が一体的に展開されるような環境整備に力を入れ、保育の実践に取り組んでいる

基本的な生活習慣、集団での遊びが取り組めるように環境を整え、一人ひとりの興味関心に寄り添うことを心がけている。また、異年齢で楽しめる機会を多く設けて年下への優しい気持ちや、年上へのあこがれの気持ちを持つなど、社会性や協調性の育ちを大切にしている。年長児では、子ども一人ひとりの感性を大事に友達と協力して遊べるよう子どもの意見を尊重した保育に努めている。また、子どもが自分の気持ちを相手に伝えられるよう、保育士が仲立ちをし関わりを大切にしている。主任保育士が中心になって月・週・日の指導計画をもとに指導したり、会議を通じてクラス担任からの問題提起などを全職員で検証することで、より良い方向が図れるようにしている。

安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が整っている

事故発生時の対応と安全確保については、定期的に事故予防発生時対応マニュアルを基に職員に研修会を開催し、職員へ安全保育の意識啓発に努めている。日常生活で発症したケガについては都度検証し、発生要因を分析し再発防止に努めている。また年間毎に事故報告書やヒヤリハットを総括し、次年度以降に反映させることに力を入れている。令和4年度は事故報告書7件、ヒヤリハット35件あり、令和5年度は事故報告書9件ヒヤリハット66件となり、その検証として事故報告は軽微なケガであっても念のため受診の依頼があり2件増となっている。ヒヤリハットの検証については、後に残らないような噛みつきやひっかき傷についても件数に入れ、責任追及ではなく小さな危険を繰り返さないように、組織一丸となって改善に取り組んでいる。

◇今後期待される点

地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている

当園は開園から4年が経過しており、その間地元の地主や自治会長などから地域に関する各種情報を得たり、また区のプロジェクト参加により、園でできることは極力実施するように努めている。また、地域の福祉ニーズにもとづいて、保育園見学対応や育児相談での情報提供など子育て支援を実施して地域貢献に関わる活動をしている。さらには、保育園周辺や近隣地域の安心・安全確保や緊急時の第二次避難場所として受け入れ体制整備に努めている。ただ、開園4年で今のところ実績はないが、ボランティア体験や職場体験などを積極的に受け入れる体制は整備出来ている。今後は、保育園として専門性を活かした情報・活動などを地域に還元し、地域の多様な機関と連携して計画的に地域コミュニティの活性化など街づくりにも貢献していき、地域の公益的な事業・活動に取り組んでいくことが課題であり、期待される。

子どもの生活を充実させるために、さらに家庭との連携を目指している

乳児クラスは連絡帳、幼児クラスでは「今日の保育」によって1日の活動を伝えている。今回行った保護者アンケートの意見欄には、さらに、「分かりやすさ」や「タイムリーさ」、「利便性の高さ」などに配慮した情報提供を望む声も複数聞かれている。すなわち、園とのコミュニケーションツールにICT化の導入が望まれていることがうかがえる。今後の課題として保護者の立場に立ったICTを導入し、保護者が記載しやすく、見たい時に閲覧できる連絡帳や今日の活動などの仕組みを設けることも望まれる。法人として色々な角度からコストなどを加味し、さらに「選ばれる保育園」作りを目指されたい。

災害時における安全確保のための取り組みを、さらに充実させることが望まれる

当園は防災に関する設備などの建物基準は十分満たしていることや、毎月地震、火災、風水害を想定した防災避難訓練を実施して対策に取り組んでいる。火災についても、出火を想定した防災避難訓練は実施している。また、近隣の民家からの火災も想定した訓練や対応なども取り入れることも望まれる。さらに、消火活動後の園の運営に関する取り決めなどを明示した事業継続計画（BCP）の充実を図られたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から4年経過し、コロナ感染症が5類となり、積極的に地域とのコミュニケーションを図り、専門性を活かし計画的に関係機関と連携するよう更に努めていきたい。また、防災、災害時の安全確保を考慮し、民家に隣接している状況を鑑みて、リスクマネジメントとして近隣火災を想定した訓練を計画していきたい。また、保護者アンケートからもICT化の要望もあり、法人と連携して前向きに検討をしていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果 別紙2のとおり